

発達特性

岩崎寿史

おかざきよろず心のクリニック
院長

いわさき・ひさし 1986年東京大学
法学部卒業。2003年名古屋大学医
学部卒業。2007年名古屋大学医学
部附属病院精神科入局。2008年より
特定医療法人共和会共和病院に勤
務。2010年より同病院医局長を務め
る。2016年「おかざきよろず心のクリ
ニック」開院、院長を務める。精神保健
指定医、精神科専門医・指導医。日本
小児精神神経学会認定医、子どものこ
ころ専門医、日本医師会認定産業医。



発達障害ではなく発達特性 ほめて育てて自己肯定感を高める

自分の子どもが「発達障害」と診断されたら、悩み、落ち込む親も少なくないだろう。しかし、それを子どもの個性＝特性として捉え、ポジティブに考えていけば、社会に出て自立するきっかけにつながるという。

モーツァルトもエジソンも
自閉スペクトラム症だった

従来から知られている「発達障害」とは、乳幼児期に発症する広範的な脳機能の異常である。その症状はさまざまあり、社会性に欠け、コミュニケーションが苦手な「自閉スペクトラム症（ASD）」、落ち着きがなく注意力が継続しない「注意欠如・多動症（ADHD）」、字が読めない、算数が理解できないなどの「現局性学習症（SLD）」、手先が不器用、運動音痴などの「発達性協調運動症（DCD）」などがある。これらの症状が単独であることもあれば、複合的に現れることもある（※下図参照）。

最後まであきらめないで!

- 子どもはかわいいことを思い出して!
- 子育ては大変、ゆとりを作り出そう!
- 子育てすると、親も人として、親として育てられる。

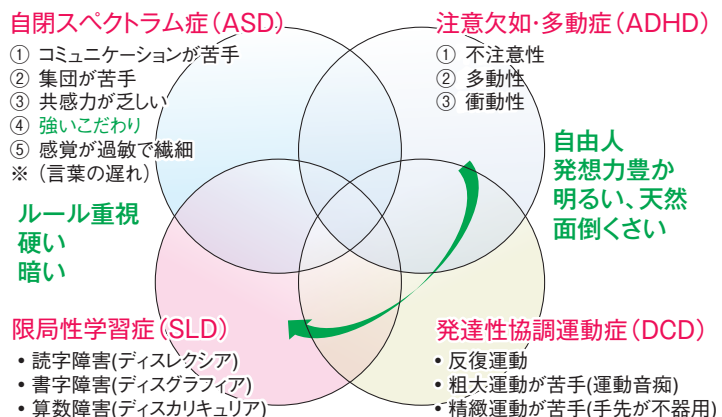
子どもが発達障害と診断されたら、親は不安になるのも当然だ。しかし、おかざきよろず心のクリニックの岩崎寿史医師は、「障害ではなく、その子の持つ特性と考えるといいでしょう。小児科ではこの症状を『発達障害』と呼ぶことが多いですが、精神科では『発達特性』の方が一般的になってきています」と話す。

親が子どもの特性を受け止めることで、子どもの日常生活や社会生活がより過ごしやすくなることも多い。効果的なのは親が子どもをほめること。短所を長所と見直して、接し方を変えることも大切。親や周囲の態度が変わるだけで症状が軽減して、投薬などの積極的な治療を行うことなく、治るケースもあるという。

「発達特性を持つっていても、社会的に成功した人は少なくありません。自閉スペクトラム症は、モーツァルトやアインシュタイン、エジソンも持っていたと伝えられています」（岩崎医師、以下同）

発達特性を持つ子どもは、特定の対象物に過度にこだわる依存傾向が強い。そのターゲットが数学や生物学などの学問や、音楽や絵画、スポーツなどのクリエイティブなものであることが理想的だ。

発達特性相関図



「それを足掛かりに自立することができず。ジャンルにより異なりますが、スターと呼ばれる存在になる可能性さえあるのです。そうした興味深い対象物や領域と出会わせてあげることが、親ができる最高の援助。発達特性の子どもを育てるのは簡単なことではありませんが、親は自分自身の楽しみを持ちながら、心に余裕を持って接することが大事。子育ては親も成長する機会でもありますので、子どもはかわいいことを思い出して、諦めないことが肝要です」